若手コーナー

エビデンスを作るということ

琉球大学医学部循環系総合内科学　大屋　祐輔

医学部の教員の仕事は、教育、研究、臨床と言われています。そのいずれも重要な仕事です。今回の原稿では、その中でも大学医学部の使命の一つとされているエビデンスの構築について書かせていただきます。

エビデンスは、科学的に証明または吟味された根拠（証拠）であり、数年前から我が国でも大流行をした、Evidence-based medicine（EBM）の頭についているエビデンスです。大いなる勘違いか、意図された勘違いなのかは解りませんが、EBMというと、マニュアルやガイドラインどおりに診療しなければならない、大規模臨床研究の結果どおりに治療をしなければならない、というように世の中で理解されてしまいました。エビデンスを重視した診療を行うのはもちろん重要ですが、本来のEBMの考えでは、エビデンスを患者さんにどのように適応するか（または適応しないのか）を考える過程が最も重要とされています。従って、欧米の患者を対象にして作られたエビデンスによるガイドラインやマニュアルを、我が国に適応できるかどうかを吟味する過程を経ずに適応することは、本来のEBMの趣旨からは外れていることになります。しかしながら、日本人を対象としたエビデンスが不足しているのも事実であり、望ましいEBMを実践するためにも、わが国のエビデンス、また自分たちの見ている目の前の患者さんたちを対象にしたエビデンスを少しでも多く作り出すことが必要です。また、欲を言えば、それが普遍的に通用するエビデンスであるように構築することが望ましいと考えます。

エビデンスという言葉の捕らえ方にもいろいろあります。たとえば、エビデンスとして、大規模臨床試験以外は意味がないように言われることもあります。しかし、科学的に証明されていれば、エビデンスの重みが違うだけで、小さな仕事でも、大きな仕事でも立派なエビデンスです。また、臨床研究、疫学研究、さらに基礎研究の何れからでも、科学的過程を経て得られるものはエビデンスです。どのようなエビデンスからも学ぶものが必ずあります。一方、科学的吟味をされていないものは、どうでしょうか？これについては、新聞や週刊誌の広告に乗っている、「○○で、うそのように直った」や「これを使えば、1ヶ月○kg減量のダイエットが成功」という宣伝文句を思い浮かべれば判っていただけると思います。医師として仕事をするからには、科学的な思考を身につける必要があります。

さて、エビデンスはどこで作られているのでしょうか？厚生労働省が作るのでしょうか？製薬会社でしょうか？有名大学でしょうか？・・・エビデンスを作ることは、科学的思考の出来る医師であれば、できる仕事です。また、エビデンスを作ることは、自分の貴重な経験を社会に伝え、後世に残すという意味で重要な仕事です。しかし、臨床の教室で研究を行うことは、エビデンスを構築する意味で必要なことであるにもかかわらず、マイナスのイメージとして、一部の好きな人がすること、趣味のようなもの、大学の中で昇進するための手段など、とも考えられてきました。実際に、自分が考えた仮説を、自分の症例や疫学データから、または実験から証明し、さらにそれを世の中に出すことで、大きな充実感や満足感が得られる

のは事実です。しかし、科学的吟味が加えられることで個人の経験に普遍的な価値を持たせることは、個人にとってのみならず、医学の進歩にとって非常に重要なことと思います。

最初に述べましたが、医学部の仕事の中で、エビデンスの構築やその構築のサポートは非常に重要な位置を占めると考えています。若い医師たちが大学とのつながりを持つ理由の一つは、科学的な思考法を身に付けることやエビデンスを作る経験をすることです。将来の臨床医としての長い生活を充実したものにするためにも、科学的思考を身に付けるチャンスを失って欲しくないと思います。現在は、医局に属する従来からの方法に加え、専門研修修練医に登録する方法、大学院や社会人大学院に入る方法など、個人の考えやライフステージにあった方法が選択できるようになってきました。どのような形でも結構ですから、エビデンスを作るといった経験をしていただきたいと思います。

21世紀はポストゲノムの時代といわれています。また、20世紀から21世紀にかけて、コンピューターサイエンスも大きく進歩しました。これらの科学技術をベースにした研究が世界各国で行われ、疾患そのものの発見、原因の発見、新しい治療法の発見が相次いで報告されています。これからの50年間は、医学の進歩にとって、また人類にとって、有史以来、最大の果実を手にすることができる時代と考えられています。若い世代には、このようなすばらしい時代の中で、自分たちに寄せられている期待に沿うように、いろいろな分野で活躍して欲しいと思います。そして、沖縄発の、琉球大学発のエビデンスを世の中に送り出してもらいたいと思います。

原稿募集！

「若手コーナー」（1,500字程度）の原稿を随時、募集いたします。開業顛末記、今後の進路を決める先生方へのアドバイス等についてご寄稿下さい。